

# 農空間

第66号

発行所  
福島県農林水産部  
農村振興課

## 【特集】農業用ダム・ため池の放射性物質対策について

### 1 はじめに

農業用ダム・ため池には、東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴い、放射性物質が堆積しており、農業生産等に悪影響がないよう対策が必要です。

### 2 これまでの県の取組

農林水産省が平成24年度に創設した「ため池等汚染拡散防止対策実証事業(以下「実証事業」)を活用して、ため池の底質や貯留水の放射性物質濃度を測定するモニタリング調査や、放射性物質対策を進める上で不可欠となる対策技術を確認するため、技術実証を行ってきました。

### 3 モニタリング調査結果

放射性物質の分布状況を把握するため、平成25年度に引き続き、平成26年度も県内の約8割のため池で放射性物質のモニタリング調査を行いました。

底質については、全体の約25%に当たるため池で、対策の基準となる8,000Bq/kg超の濃度となっています。(表1)

|         | 底質<br>(8,000Bq/kgdry超の所数および最大値) |                           |
|---------|---------------------------------|---------------------------|
|         | 平成25年度調査<br>(調査地点数1937箇所)       | 平成26年度調査<br>(調査地点数2953箇所) |
| 全体      | 576カ所(30%)                      | 730カ所(25%)                |
| 避難指示区域外 | 464カ所(28%)                      | 560カ所(21%)                |
| 避難指示区域内 | 112カ所(39%)                      | 170カ所(55%)                |

(表1) 底質

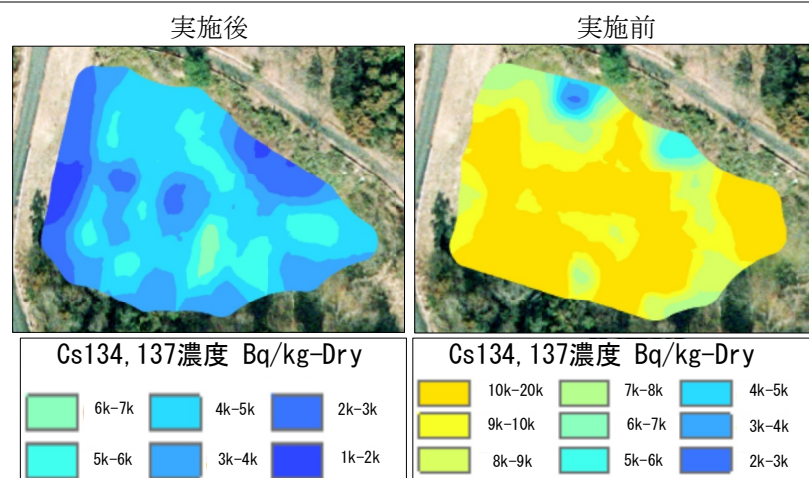
|         | 溶存態(検出カ所数及び最大値)         |                         |
|---------|-------------------------|-------------------------|
|         | 平成25調査<br>(調査地点数1660箇所) | 平成26調査<br>(調査地点数2452箇所) |
| 全体      | 38カ所<br>11Bq/l          | 32カ所<br>9Bq/l           |
| 避難指示区域外 | 2カ所<br>8Bq/l            | 検出限界値未満<br>(検出限界値1Bq/l) |
| 避難指示区域内 | 36カ所<br>11Bq/l          | 32カ所<br>9Bq/l           |

(表2) 水質

### 4 技術実証

平成25年度から、放射性物質による影響軽減に有効な対策技術として、底質除去及び流出抑制等の技術を中心に実証してきました。

較すると次の写真のとおり効果が確認されました。



### 5 対策の概要

ため池の放射性物質対策については、平成26年3月から、「福島再生加速化交付金」を活用できることとなりました。(詳細は62号参照) これを受け、農林水産省は、調査や実証事業から得られた知見を基に、市町村等が対策を行えるよう「ため池等放射性物質対策技術マニュアル」を平成27年3月に公表しました。

### 6 今後の対応

平成27年12月現在、浜通り・中通りの対策が必要な市町村の約半数の市町村が詳細調査などに着手しています。

うお願いします。  
なお、詳細な事業内容については、農地管理課又は、各農林事務所農村整備部までお問い合わせ下さい。  
《農地管理課》

### 福耕支援隊情報

相双農林事務所農村整備第三課では、農業用施設(排水機場、排水路)の復旧と今年度から南相馬市小高区以南のほ場整備を実施しています。また、旧警戒区域内の滝川ダム管理など業務は多岐に渡ります。  
当課では、1年間の派遣期間(例外あり)で4名の福耕支援隊の応援をいただき、業務に励んでいます。皆様からの熱いメッセージをご紹介します。

#### 秋田県 池田剛志さん

福島に災害派遣として着任し、1年目に嫁さんを紹介してあげると当時の上司にほだされ、派遣希望を続けて3年目となつてしまいました。こちらのの方はさっぱりです。  
残り3ヶ月でラストスパートをかける予定です。仕事の方は力の限り勤めさせて頂きます。

#### 青森県 田中成司さん

前回の平成23年度に南相馬市への派遣に続き、今回で2回目の災害派遣となります。  
前回は、災害状況の把握でとても忙しいでした。今回は少しでも復興のお手伝いがしたく手を挙げて来ました。何なりと簡単な仕事を申し付けて下さい。

#### 愛媛県 秋山元洋さん

この4月から1年間農村整備第三課でお世話になっております。愛媛県の秋山元洋です。私は昨年度4月から3ヶ月お世話になつ

ており2回目となります。今回は前回とは違い自家用車をこちらに持ってきているので福島県や東北地方の各所を訪ねたいと思っております。福島県の復興のため前回よりも頑張りたいと考えているのでよろしくお願います。



#### 沖縄県 神里昌直さん

沖縄県より1年間の派遣期間も残り半年となりました。いまだ残る大震災の爪跡、福島の大な自然、歴史、そして田んぼとともに重ねられてきた生活と、沖縄にいるときはテレビの中や本の中のことではなかったものを現実として感じている日々です。福島ファイヤーボンを応援しながら福島の日も早い復興を応援していきます。

Let's go福島!! Go Go Bonds!!



### 福島県関係各課の紹介

#### 農村基盤整備課

農村基盤整備課では、農地の区画整理をするほ場整備、老朽化した水路やため池などの農業水利施設の改修、農道や農村部の下水道である集落排水といった農村生活環境の整備に加え、災害復旧を含めた農業農村整備のハード全般を担当しています。また、今年度は職員の資質向上を目的としてOJT(On the Job Training)にも取り組んでおり、ここではその取組について紹介します。

具体的には農家の方々や農業法人、土地改良区などを訪問し、農業への取組事例や地域の課題、要望などを伺い、新たな施策を提案するというものです。県内各地を訪問し、たくさんの方から直接お話を伺いましたが、これまで私たちが考えていなかった話も数多くあり、大変刺激を受けました。施策の検討にあたっては、現場で求められていることを意識して検討しましたが、全員で十分に議論することで、職員の「考える力」が養われたと感じています。

今後、OJT(大きな耳で、地元の声を、たくさん聴く)を強く意識して、要望に応えられるような様々な提案をしてまいりますので、農業農村整備事業へのご理解、ご協力をよろしくお願いたします。



ふくしま復旧便  
ー県内からのお便りー

三ツ森地区の復旧工事

9月9日、雨の降るなか、大玉村立玉井小学校4年生が、災害復旧工事を実施している「三ツ森ため池」を訪れました。復旧工事は、平成23年3月11日発生の東北地方太平洋沖地震により、ため池堤体天端の中央部に亀裂が生じ、ため池の機能が大きく損なわれたため、上流斜面及び下流斜面法先に押さえ盛土を設置し、安定構造とする工事を進めてきました。



堤体に亀裂が生じている様子



見学の様子

訪問当日、4年生のみなさんは、雨合羽を着込み、頭にヘルメット、手には軍手を付けてバスから降り、池底を歩き、工事の説明を受けました。後日頂いた感想文では、「いつもは水の貯まるところに入らせてもらっ

てうれし  
い」「た  
め池の水  
が田んぼ  
に使われ  
ているの  
を知った  
」「池は思  
っていたよ  
り大きい  
」「大地震  
でひびが  
入って、工  
事していた  
ことを知  
らなかつた  
」とありま  
した。ま  
た、引率の  
先生からは  
、「三ツ  
森ため池が  
大玉村にと  
つて欠か  
せない大切  
な施設であ  
ることを  
知り、水が  
貯まる前の  
池底に入っ  
たことは、  
子供たちに  
とつて心  
に残る体験  
となった」  
という感  
謝の言葉も  
頂きました  
。工事は今  
年10月に竣  
工しまし  
た。地域の  
皆様のご協  
力に感謝  
申し上げます  
。【県北農  
林事務所】



地域に根ざした水土里ネット  
ー榎葉町土地改良区ー  
津波被災からの復旧に向けて

のほぼ中央にある榎葉町役場内  
にあり、水田・畑約706haの  
受益地をかかえています。今年9  
月の避難指示解除以前から、東  
日本大震災により被災した農地・  
農業用施設の復旧を進めてきま  
した。  
榎葉町は、直轄除染が完了し  
たところから災害復旧を順次進  
めて来ましたが、全町避難を強  
いられた中で地権者との連絡・



調整を行う必要があ  
るため、大変困難な  
状況が続きました。戻  
復旧しても本当に戻  
てくれないのか？戻  
ても農業を再開でき  
るのか？など、多くの農家の方  
の不安の声にどのよう  
に大変苦しい時期が  
過ぎました。査定・災害復旧工  
と多忙ではありませ  
んが、復興に向けて進  
東海農政局からの派  
遣員が、復興に向け  
お供に復旧・復興に  
おります。  
営農再開に向けては  
多くの課題が残って  
復興に向けて進んで  
まいります。

トピックス  
秋の農村を巡る  
ウォーキングを実施しました

水土里を育む普及促進事業の一環として、10月18日(日)に磐梯町で「第一回ばんだいい紅葉ウォーキング」を、11月1日(日)には二本松市東和地域で「第九回あぶくまふるさとウォーク」を実施しました。



ばんだいい紅葉ウォーキングでは初開催にも拘わらず95名の方が参加し、日本水百選でもある「龍ヶ沢湧水」や、リンゴの収穫体験を楽しみました。あぶくまふるさとウォークで

（上）ばんだいい紅葉ウォーキング  
（右）あぶくまふるさとウォーク

は、321名の方が参加し、6kmコースと10kmコースに分かれ、昔語りや餅つき体験、野菜の収穫などを楽しみました。参加した方からは「景色がとてもきれいだ」「収穫体験が楽しかった」「また参加したい」などのご意見をいただきました。

農業農村工学会東北支部  
総会を開催しました  
平成27年10月26日(月)、27日(火)に福島市「コラッセふくしま」にて平成27年度農業農村工学会東北支部総会及び研究発表会を開催しました。支部賞として、福島県からは「農業用施設(ため池)における耐震性検証技術」と題して福島県農業総合センター企画経営部の佐藤輝幸専門研究員が受賞しました。午後からの研究発表会では、東北各県71名から震災復旧、土壌物理、灌漑排水、環境保全、農村計画など様々な分野について発表がありました。

消費者の部屋にて三県合同  
パネル展を実施しました  
平成27年11月9日(月)から13日(金)に農林水産省「消費者の部屋」にて「岩手県・宮城県・福島県 農業農村復旧復興展」を開催しました。  
この復興展は東日本大震災から約4年8ヶ月経過した各県の農業農村の復旧・復興の状況を紹介するために開催されました。5日間で約730名の来場があり、福島県はアンケートに回答いただいた方に先着で「天のつぶ」をお渡ししました。

11月発行の予定が、12月末になつてしまひ、大変申し訳ありませんでした。  
今年度からウォーキングイベントを担当することとなり、いろいろ不安もありましたが、天候にも恵まれ、ケガ人もなく無事に終えることができました。参加者の方々の笑顔と、アンケートに記載していただいた感謝のメッセージを見て、担当として良かったと感じました。来年以降も担当となる機会があれば今後積極的に参加していきたいと思ひます。  
(編集担当者 N・K)

10日(火)には福島県出身の岩城法務大臣が訪れ、激励の言葉をいただきました。その他来場者からも「一日も早い復旧を願っています」「積極的に農作物を買って応援したい」等、たくさんの方の励ましの声をいただきました。  
【農村振興課】

静岡県島田市立金谷小学校児童の見学風景  
編集後記  
11月発行の予定が、12月末になつてしまひ、大変申し訳ありませんでした。  
今年度からウォーキングイベントを担当することとなり、いろいろ不安もありましたが、天候にも恵まれ、ケガ人もなく無事に終えることができました。参加者の方々の笑顔と、アンケートに記載していただいた感謝のメッセージを見て、担当として良かったと感じました。来年以降も担当となる機会があれば今後積極的に参加していきたいと思ひます。  
(編集担当者 N・K)